

事務事業名	飯田古墳群保護活用事業				会計	一般会計	実施区分	継続	
H29作成課等名	生涯学習・スポーツ課	H29係等名	文化財活用係	H28担当課等名	生涯学習・スポーツ課				
基本計画上の位置づけ	政策	6	地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり						
	施策	63	地域資産の保存・継承						
目的	対象(誰・何を)	前方後円墳をはじめとする、市内にある古墳				対象指標	指標名及び単位		28年度数値
	意図(どういう状態にするか)	全国に誇れる地域資産として後世に伝えていくとともに、人づくり・まちづくりに活かす					国史跡に指定された古墳(基)	13	
	向上させたい上位施策の成果指標	保存・継承されている地域資産の数(累計)					優先的に保存活用すべき主要古墳数(基)	13	
目標	種別	指標名及び単位			27年度計画	27年度実績	28年度計画	28年度実績	備考(指標変更など)
	成果指標	古墳見学会・学習会の開催・支援回数(回)			15	10	20	15	
	成果指標	国史跡指定された古墳数(基)			13	13	13	13	
定性目標									
事業概要	<p>・飯田市は、22基の前方後円墳・帆立貝形古墳をはじめとする多くの古墳の存在が示すとおり、古墳時代においても繁栄を遂げていた地域であった。こうした背景には、当時の飯田の地が、軍事、運輸上から重要であった馬の生産・管理に携わり、中央政権(ヤマト王権)との強いつながりをもっていたためである。ごく限られた範囲に集中的に築造された群としての一体性、様々な墳形や石室構造を持つ多様性、出土遺物の中には飯田型とも称されるものが存在する独自性が飯田古墳群の重要な特徴である。飯田古墳群は、律令制度による中集権国家が成立する前の中央と地方の関係を地方の視座からとらえられる点で日本史上重要な価値を持っており、全国的にも注目されている。</p> <p>・本事業は、市内の主要な古墳を飯田古墳群と総称し、後世に良好な形で保存継承するための方策の一つとして、平成27年度に文部科学大臣に国史跡指定のための意見具申を行い、平成28年10月3日に正式に指定された。</p> <p>・引き続き、古墳の保存活用を図るため、①史跡飯田古墳群の保存活用計画を策定する、②古墳を核とした人づくり・まちづくりを地域と連携して進める、③その存在と価値に対する市民理解が進むよう積極的な情報発信などの諸事業を行う。</p>								
28年度事業内容	事業内容				名称		活動指標		
	1 範囲確認調査の実施				1 調査対象古墳数		1 1基		
	2 範囲確認調査報告書の刊行				2 対象古墳数		2 1基		
	3 地域との協働による学習会・保護活動・検討会等の実施				3 実施回数		3 23回		
	4 市内外への情報発信、パンフレット作成				4 実施回数		4 13回		
	5 古墳説明板等の設置、修繕等				5 対象古墳数		5 13基		
事業コスト		27年度決算額	28年度予算額	28年度決算額	29年度繰越額	特定財源内訳、補足			
事業費計(千円)①		2,400	2,487	2,401	0	(国)文化財保護補助金(1/2)			
国庫支出金		1,200	1,200	1,200					
県支出金									
起債									
その他									
一般財源		1,200	1,287	1,201					
人件費計(千円)②		10,728	10,013	10,013	0				
正規職員所要時間		3,000	2,800	2,800					
臨時職員所要時間									
総事業費①+②		13,128	12,500	12,414	0				
事業内容・目標達成状況の振り返り		<p>・古墳の権利者や地域の協力と文化庁・県教委の指導を得て、平成28年1月29日に文部科学大臣へ史跡指定の意見具申をし、平成28年10月3日に正式に指定された。</p> <p>・史跡指定に伴い、新たなパンフレット作成し、ホームページ、広報いいだ、ケーブルテレビ等で情報発信を行った。</p>							
改革改善の考え方	①問題点	飯田古墳群の存在や、歴史的価値を広く周知するため、情報発信機能を充実させる必要がある。また、各地区で古墳の保存活動に取り組む団体と更に連携・協働する必要がある。							
	②改革提案	主要古墳の所在する地域等と連携を図りつつ保存活用についての講座や講演会等を開催する。ホームページへの掲載等情報の充実を図る。また、平成29年度に美博と連携した特別展を開催し、ガイドブック等を作成する。							